

カンムリカイツブリ（カイツブリ科） 全長56センチ

11月22日、今年も大浦沼にカンムリカイツブリが飛来した。

この沼で繁殖が確認されておらず、渡りの途中に立ち寄ったのか、横手市内で繁殖した個体が飛来したのと思われます。カンムリカイツブリはバンやカイツブリと同じで、浮巣を作り子育てする習性があります。大浦沼には繁殖期から夏ごろまでに、数羽の飛来が見られました。

しかし、なぜか繁殖の気配すらありません。横手市の蛭藻沼や安本の堤と比べても、植生や自然環境などに大きな変化は見当たりません。違いがあるとすれば、ルアー釣りの釣り人が多いことではないか。

元々、大浦沼はバンやカイツブリが普通に繁殖していたものですが、ルアー釣りが増えてからぱったりと見えなくなりました。



白黒模様の冬羽になっていた。

釣り糸を50メートルも遠くに投げ釣り場所を頻繁に変えるので、安心して巣作りが出来なくなったのでしょう。

今日は6羽のカンムリカイツブリが見られたが、日によって変動しています。近くの川や沼を巡りながら、移動を繰り返しているものでしょう。



クチバシも白っぽくなっている。



後姿は黒っぽい。

秋田県は11月1日が狩猟解禁日となっているがことから、冬鳥のマガモやコガモたちは禁猟区へと飛び去ってしまいました。残っているのは何故かオオバンだけでした。

カンムリカイツブリなどの潜水が得意な種は、いざというとき水中に潜ることで難を逃れることが出来るのでしょ



頭の羽が名前の由来となったようだ。



潜った瞬間。